

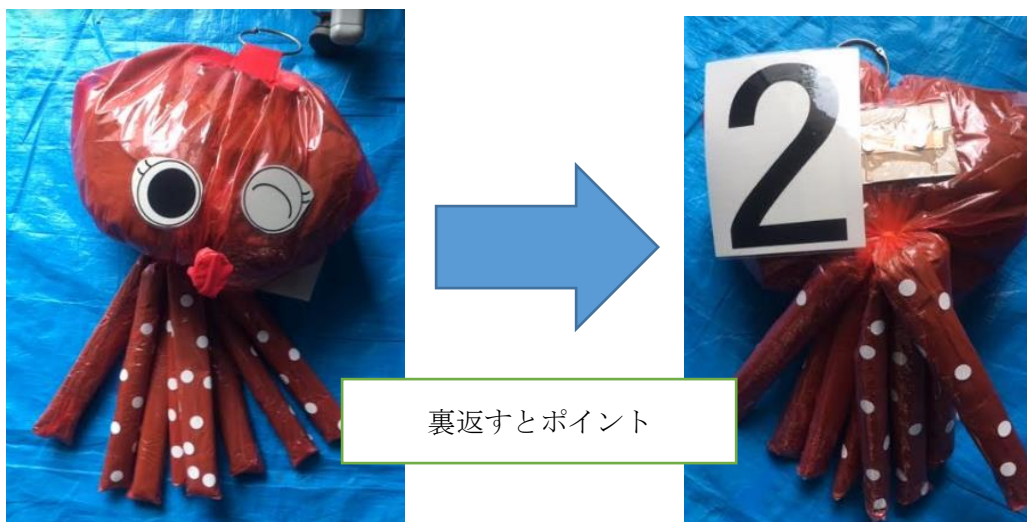
密を避けた体育 ～運動会競技 小学部～

感染症対策を講じた団体競技の事例です。

競技名『どっちが大漁？海の生き物をあつめよう！』

子どもたちにわかりやすい「ものを取る」「目的地まで運ぶ」という活動を組み合わせています。

また、算数で学んだ加法を使うこともでき、観客にもわかりやすい、ポイントを足して多い方の勝ちというルールを設定しています。



【感染症対策として留意したこと】

- ① 子どもの密集を避けるために、子どもの位置をいすで明確に示す（配置図参照）
- ② 物を介しての感染を防ぐために、道具を共用せず、一人一人が使う道具を決める

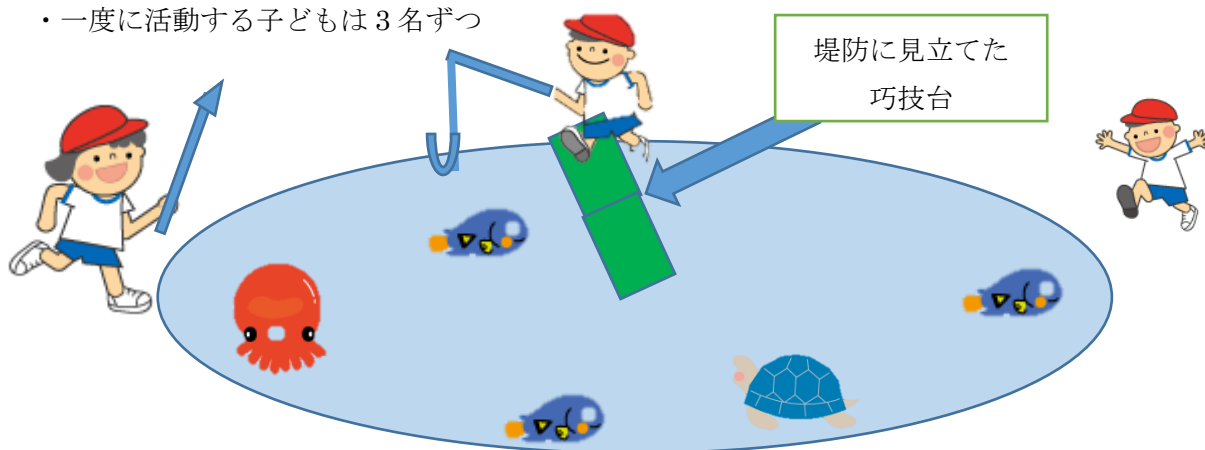


「モリ」です。組み立て式で2か所の赤いテープ部分を組み立てて長くします。「モリ」を使う子どもたちは素早く活動できるので、他の子どもとの活動時間の調整にもなります。もちろん、お友達に危なくないよう立てて持つことも指導します。



「釣り竿」です。クリーニングハンガーを利用し、先の丸い部分に魚のリングをひっかけます。

- ③ 子ども同士が接触することを避け、近距離で組み合うことがないように、一人一人が活動する位置を魚の置き方や釣り場で決め、少ない人数で活動する
 - ・一度に活動する子どもは3名ずつ



【以下の点でも競技内容を検討】

- ④ 一人一人の活動が認められるもの
- ⑤ 結果（勝ち負け）が子どもにわかりやすいように

【競技内容】

- ・ 大きさの異なる魚、タコ、亀などを釣り上げる。
- ・ 釣り上げ方は、Ⅰ：手づかみ Ⅱ：釣り竿 Ⅲ：モリ とする
- ・ 魚に表示されているポイント（1～3の表示）と同じ数字のいけすに見立てたラックにかけ、合計ポイントがわかるようにする。
- ・ ポイントの多い方の勝ち



いけす



得点ボード

